事例 2

舞台技術者への普及啓発が、ひらかれた劇場をつくる

KAAT 神奈川芸術劇場

岸本匡史
公益財団法人としま未来文化財団　としま区民センター・野外劇場運営課

事業概要
　新型コロナウイルス感染症の影響で中止になったが、2020 年 3 月 11 日に「KAAT 舞台技術講座 2020」のプログラムの一環として、「舞台芸術×障害者～舞台技術者がインクルーシブシアターを考える～」が開催予定であった。この講座は舞台技術側からの取組み事例である。
　このプログラムは 8 月に、舞台技術者向けに「舞台技術者がインクルーシブシアターを考える　字幕サービス編」（8 月 6 日）及び「同　音声ガイド編」（8 月 7 日）として開催されたが、これがどういった経緯で企画されたのか、KAAT で舞台技術者を務める平井徹氏にその想いを伺いながら、講座を開催した感触を伺った。

「ひらかれた劇場」を目指す中から企画が生まれた

　KAAT を運営する（公財）神奈川芸術文化財団は、次期指定管理期間に向けて、社会包摂や教育連携などに取り組んでいく「社会連携ポータル」という部門を立ち上げることとなった。そこでは、さまざまな障害のある方を含め、多様な方々との取組みから、地域の方々へと連携していくという目標を持ち、ひらかれた劇場を目指していくという。その方針の元、「まずは理解を」という試みの中からこの企画は生まれてきた。

誰もがアクセシビリティを担う一員

　今までの舞台芸術の芸術鑑賞サービスは、障害のある方々と活動をしている人たちが主体となってアクセシビリティ等を用意し、技術者たちはその要望を受け入れている状態であった。だが、本当の芸術鑑賞サービスはそうではない。舞台、照明、音響や映像と同様の、一つの専門的な分野になるべきではないか。そのためには技術者もそのようなサービスを担う一員であるという理解が必要であり、障害や多様性について学ぶことから始めなければならない。その基礎講座として当講座は企画されている。
　担当者の平井氏はイギリス留学経験もあり、現地の劇場でアクセシビリティに対する様々な取組み事例を視察してきた。そして KAAT では技術者もアクセシビリティに関して積極的に学び、知見を共有していくため、講座等を開催する予算を組んでいる。こういった人的資源と運営体制のマッチングも大きな後押しとなった。

フリーや若い人達にこそ学んでほしい

　プログラムの対象としては、舞台技術スタッフを第一に、制作運営スタッフも対象にした。特に公共劇場のスタッフに限るということはなく、広くフリーの方にもぜひ勉強をしてほしいという想いが平井氏にはあ

る。様々な場所で公演に係わっているスタッフへの理解を促進しなければ、劇団やイベント等、日本の実演芸術の世界で、この考え方が広がっていかないという危惧を持っているのだ。

障害のある方々とのちょっとしたすれ違いから、劇場側の対応に対する信頼が薄れていく前に、知識を付け、インクルーシブであることが当たり前だとして対応できるようになってほしい。特に若い技術者たちにもこういった知識が必要であるということ、大切なことだということを知ってもらうきっかけになればと願っている。

理解からクリエイションへ

多様な方との作品創りへと係わっていくなか、舞台監督やプロダクションマネージャーがインクルーシブに関する知識をもっていることは、大きなポイントとなっていく。技術の専門家として、演出含め各ポジションとの調整役が、まずはインクルーシブであるとはどういうことかを理解することで、各セクションもスムーズに動けると考えている。全てのスタッフが障害等に理解をしていくことで、安心感をもって多様な方が出演できる環境を整え、ゆくゆくはクリエイションが行えるレベルを目指していく。

そして、KAAT はアクセシビリティの相談ができる劇場となるためにも、企画を立てる側からも「社会連携ポータル」を意識し取り組んでいることを発信し、多様な方が常に集まる開かれた劇場へと進歩を遂げていきたいと考えている。

真の共生社会に向けて

技術者のための技術者による講座。その視点は今の日本のアクセシビリティには抜け落ちていたかもしれない。劇場は自主企画だけで運用されているところはほぼなく、ほとんどは貸館事業が中心だ。そんな中、アクセシビリティの知識がスタッフになければ、正しい対応ができないどころかクレームにもつながりかねない。この点に関して、日本の公共劇場、技術者たちの現状はどのような状況なのだろうか。今後はそういった視点での調査と統計も必要だ。

当事業の担当者は自身の劇場のみならず、舞台芸術界全般を見据えていることが印象に残った。多様な方々が何の憂いもなく劇場を借りられ、スタッフに利用上の相談をしたり、スタッフからアドバイスを受けたりできる。そんなひらかれた劇場が全国に広がり、それが当然となるように、劇場職員、技術、そして委託事業者も含め、私たちは普及啓発し伝えていかなければならない。共生社会はその先にある。

KAAT 神奈川芸術劇場

住所：神奈川県横浜市中区山下町 281

概要：2011 年、「モノをつくる　芸術の創造」「人をつくる　人材の育成」「まちをつくる　賑わいの創出」という「３つのつくる」をテーマにした創造型劇場として開館。演劇、ミュージカル、ダンスなどに適したホール（最大 1200 席）、演劇やダンス公演のほかリハーサルスペースとしても使える多目的な大スタジオ（約 220 席）、稽古場としての利用のほか小規模な公演も可能な中スタジオ・小スタジオ、アトリエを備える。隣接する神奈川県民ホール本館との一体運営も特徴の一つ。2016 年より白井晃氏が、2021 年 4 月からは長塚圭史氏が芸術監督を務める。管理運営は公益財団法人神奈川芸術文化財団。